

木祖村議会だより

道しる



新年あけましておめでとうございます
木祖村議会議員一同

令和3年1月28日

No 171

12月23日 とちのみ保育園の園児とサンタさん

令和3年 新年のごあいさつ

木祖村議会議長 古畑節行

新年あけましておめでとうございます。

令和3年の新春を迎え謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃は木祖村議会に対しまして、ご理解とご協力を賜り、議員一同深く感謝と御礼を申し上げます。

一昨年、中国武漢で始まった新型コロナウイルス感染症が世界中で大流行しており今なお拡大の一途で終息がみえません。国内ではクルーズ船での集団発生、緊急事態宣言の発令、学校の一斉休校もありました。

東京オリンピック、パラリンピックも延期となり人の流れも制限されました。村内においても地域の祭りを始め多くの行事が中止となり飲食も制限されみんなの元気がなくなり、今なお感染者はすごい勢いで増え続けています。新しい令和3年は一刻も早く有効なワクチンが完成し、コロナが収まりオリンピックが開催され世界中で、日本中で、そして村内で賑やかにお祭りも駅伝も開催され、村中が元気になりますようお願いしたいものです。

しかしコロナで沈んでばかりいられません。住民の皆様と村が一体となって元気な木祖村を作っていかなければなりません。村内では、や

ぶはら高原スキー場の検討委員会がスキー場のあるべき姿を目指してしっかりと議論を重ねています。村民の皆様が納得できる形で早い時期にやぶはら高原スキー場の良い方向が示されますよう今後の展開が期待されます。

4月には村の福祉施設も完成します。この施設には運動ルームもあって若い人も高齢者も、みんなが参加できる施設です。気軽にお茶を飲んだりできる場所、交流の場として大いに活用し健康寿命を伸ばしましょう。

木祖村にとって大きな課題は元気な木祖村をどうやって次の世代に引き継ぐか、ということです。村が元気に輝くためには若い人たちの力が欠かせません。若者の期待に応えるには村の産業が繁栄し、働く場所があって喜んで住める村づくりが大事になってきます。

議会はこうした課題に柔軟に対応しながら、地域の声を行政に届けていきます。これからもご意見ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

村民の皆様が元気で幸多い年でありますよう心からお祈り申しあげ、新年のご挨拶とさせていただきます。



議長 古畑節行

議員 鈴木正弘 議員 大久保繁子 産業経済委員長 栗屋正一 議員 安原千佳世 厚生文教委員長 青木 功 議会運営委員長 田上芳朗 議員 田中寛幸 副議長 深澤衿子

木曽広域連合議会報告

定例会終了後、全員協議会の中で、木祖村としても大きく関係のある「文化公園あり方検討委員会」の報告を受ける。

木曽文化公園は、これまで木曽の文化振興・芸術振興・教育の中核として活動されてきており、施設の必要性は検討、確認されているところである。しかしながら、築30年を経過している施設整備は老朽化が進んでおり、本来であれば新施設建設を検討すべきであるが、木曽郡内各町村の財政事情、クリーンセンター等の施設更新、木曽寮等の老朽化対応を実施している現状から、施設建設着手は難しい状況にある。

施設建築物としての耐用年数も後30年とされており、その期間、運営のあり方の協議と共に、施設の維持、今後へ繋げる方針として、改修及び施設補修が提案された。

利用者の生命・安全に関わる設備の改修、修繕の最優先事項の中から、早急に実施すべき改修として、舞台機構の老朽化対策工事を令和3・4年にかけて1億6千8百万円、ホール天井の耐震対策工事を事前の技術検討を含め令和6・7年にかけて2億6千5百万円、非常電源、法令による受電設備の交換工事を令和8年に4千9百万円、又、早急な実施改修と合わせて客席椅子の更新を令和7年に8千万円の概算見積額が提案された。総額5億6千2百万円を財政的負担軽減のため、一括大規模改修するのではなく、必要最低限の対策工事を適時、実施し、財源として社会資本整備総合交付金、防災・安全交付金等の補助金、交付金の活用も提案された。

今後、耐用年数30年への維持のため、緊急を要する工事費用とは別に最低限の改修・修繕費用として6億7千9百万円程度が必要との試算も報告された。この財源として令和3年から毎年1千5百万円を20年間（総額3億円）、木曽文化公園設備整備基金の設立が提案された。令和3年2月木曽広域連合議会第1回定例会にて審議される予定である。

松塩筑木曽老人福祉施設組合議会の報告

令和2年11月5日(木)

■ 議案第1号 令和元年度一般会計歳入歳出決算認定について

歳入 47億4,227万9,354円 ・ 歳出 45億2,426万6,225円

■ 議案第2号 令和2年度一般会計補正予算(第1号) 1億9千万円 補正後48億2千万円

歳入 サービス収入2,773万円の減・繰越金2億1千701万3千円の増他
歳出 総務費1億5千725万4千円・民生費3千274万6千円

【全員協議会において】令和3年～5年度の実施計画説明

通所介護施設の貸与について、貸与予定先無し・令和3年3月で休止
(山形村やまがた・木曽町ひなたぼっこ・木祖村そほく)

◎非常時の福祉避難所として活用出来る様に最低限の維持管理

◎貸与の申し出があれば協議し使用可とする

施設入所定員の見直しについて(令和5年度までに 長期・短期含む)

サニーヒルきそ80⇒70人・なんてんの里70⇒60人・木曽あすなろ荘80⇒70人

11月 会議

11月2日(月)

38,667千円を増額し、総額を3,795,556千円とする補正予算専決報告1件、議案1件(補正予算)について慎重審議され、全案件を原案通り可決し、同日散会しました。

提出議案概要

専決報告第8号 令和2年度木祖村一般会計補正予算(第6号)

- ・9月7日 藁原地区 倉庫火災出動に係る71名分の消防団員出動費 419千円

議案第69号 令和2年度木祖村一般会計補正予算(第7号)

- 〈歳入〉・国庫補助金 地方創生臨時交付金28,520千円
 - ・繰入金 財政調整基金繰入金10,147千円
- 〈歳出〉・財産管理費 公用車購入費4,888千円
 - ・社会福祉総務費 福祉車両購入費5,700千円
 - ・林業費 カシノナガキクイムシ被害木処理工事704千円
 - ・商工振興費 スキーシーズン券購入者用商品券500千円、事業者支援事業補助金10,000千円、スノーリゾート支援事業補助金10,000千円、宿泊業経営持続支援事業補助金3,500千円
 - ・道路維持費 災害関連維持補修費6,050千円
 - ・中学校費 部活動感染防止対策物品購入費129千円、修学旅行キャンセル料118千円
 - ・道路橋梁災害復旧費 7月豪雨災害応急復旧分7,138千円

11月 会議 (その2)

11月26日(木)

人事院勧告に基づく条例改正3件について慎重審議され、全案件を原案通り可決し、同日散会しました。

提出議案概要

議案第70号 木祖村一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について

議案第71号 木祖村議会の議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例について

議案第72号 木祖村特別職の職員等の給与に関する条例の一部を改正する条例について

改正内容(議案70号~72号)

- 一般職・議員・特別職の期末手当の改正
 - ・年間で0.05月分引き下げる
 - ・令和2年度は12月支給分から0.05月を減算し、令和3年度以降は、年間0.05月分を6月と12月にそれぞれ振り分け減ずる。

11月2日(月)

常任委員会連合審査

議案第69号 令和2年度木祖村一般会計補正予算（第7号）

厚生文教委員会

問 今回、購入する公用車と（各種学級講座、研修、児童生徒及び保育園児用）福祉車両は（要介護者・身体障害者用等）福祉施設オープン後、利用者の交通の足として、車両の活用を考えているのか。

答 新たな交通の運行経路など、ダイヤ改正等を視野に入れて対応を考えたい。

問 保育園バスは専用デザインとして確保した方がよいのではないのか。

答 ラッピングやマグネット式ステッカーを貼るなど対応を検討したい。

問 購入車両は、普通の公用車としても利用するのか。

答 利用実態を考えて公用車に無駄が無いように活用したいと考えている。

問 福祉車両は、どのような規格なのか。

答 ハイルーフのロングでリフト付きの車両である。

産業経済委員会

問 「カシノナガキウムシ」の移動範囲と処理内容は。

答 半径300mくらいであり、今回の場所は車が入れないため、その場でくん蒸等対策を行い処置などする予定である。

問 今後、「カシノナガキウムシ」の予防対策はどのようなのか。

答 早期発見が重要であるため、パトロールを実施していきたい。

問 村民限定のリフトシーズン券購入補助事業を、住民にしっかりとPRをしてはどうか。

答 購入の内容は、大人の自己負担が7,000円で木祖村共通商品券を5,000円分給付する。「高校生、小中学生は自己負担なし」小学生未満は（無料）となっている。しっかりとPRしたい。



12月会議

歳入歳出予算それぞれ9,333千円を増額し、総額を3,804,889千円とする補正予算

12月会議には、議案8件（人事案件1件・条例制定1件・条例改正3件・補正予算3件）12月11日（金）に再開された令和2年12月会議では、以下の議案について慎重審議され、12月18日（金）全案件を原案通り可決し、同日散会しました。

提出議案概要

- 議案第73号 木祖村農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
議案第74号 木祖村議会議員及び木祖村長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の制定について
議案第75号 木祖村基金条例の一部を改正する条例について
議案第76号 木祖村国民健康保険税条例の一部を改正する条例について
議案第77号 木祖村地域経済牽引事業の促進に係る固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例について
議案第78号 令和2年度木祖村一般会計補正予算（第8号）

〈主な内容〉

〈歳入〉

- ・ 国庫補助金 障害者地域生活支援事業費補助金 163千円
高齢者医療制度円滑運営事業費補助金 118千円
- ・ 県支出金 新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業補助金 51千円
- ・ 寄附金 ふるさと納税寄付金 9,000千円
東海地区村人会寄付金 80千円
- ・ 繰入金 財政調整基金繰入金 980千円
- ・ 諸収入 建物災害共済金 70千円

〈主な内容〉

〈歳出〉

- ・ 共通項目 : 木曽広域連合負担金等は、木曽広域連合11月定例議会で追加及び減額となった町村分担金、負担金の補正郵送代 800千円
- ・ 一般管理費 庁舎キューピクル増設工事 220千円
- ・ 財政管理費 地域おこし協力隊起業支援補助金 1,000千円
- ・ 企画費 ふるさと納税寄付金事業 4,990千円
福祉施設完成記念品 55千円
- ・ 社会福祉施設費 子ども、子育て支援交付金返還金 299千円
- ・ 児童福祉施設費 母子保健衛生費補助金返還金 390千円
- ・ 母子保健事業費 山林協会負担金 776千円
- ・ 林業総務費 制度資金保証料補給金 2,105千円
- ・ 商工振興費 郷土館屋根修繕 141千円
- ・ 文化財保護費

- 議案第79号 令和2年度木祖村国民健康保険特別会計補正予算（第4号）
歳入歳出予算それぞれ31,158千円を増額し、総額を331,113千円とする補正予算

〈主な内容〉

〈歳入〉

- ・ 歳補助金 保険給付費等交付金 29,462千円
- ・ 繰入金 一般会計繰入金 66千円
支払準備基金繰入金 4千円
- ・ 雑入 令和元年度療養給付費精算返還金 1,626千円

〈主な内容〉

〈歳出〉

- ・ 一般管理費 コクホラインシステム改修委託料 66千円
- ・ 療養諸費 見込額の増額 16,358千円
- ・ 高額医療費 見込額の増額 13,104千円
- ・ 一般被保険者償還金 令和元年度普通交付金精算による返還金 1,630千円

- 議案第80号 令和2年度木祖村下水道事業会計補正予算（第2号）

1、収益的収入及び支出の補正

- 〈主な内容〉〈収入〉 478千円を増額し、総額を213,255千円とする補正予算・一般会計繰入金478千円
〈支出〉 440千円を増額し、総額を210,015千円とする補正予算 主な内容は以下のとおり
・ 浄化槽修繕2件190千円 ・ 浄化槽整備事業分担金1件250千円

2、資本的収入及び支出の補正

- 〈主な内容〉〈収入〉 744千円を増額し、総額を110,793千円とする補正予算
・ 一般会計繰入金494千円 ・ 新規加入分担金250千円
〈支出〉 744千円を増額し、総額を176,529千円とする補正予算 主な内容は以下のとおり
・ 公共マス設置工事372千円 ・ 広域連合負担金（浄化槽設置分）372千円

木祖村農業委員に1名任命 令和2年12月会議にて同意した。 任期：令和3年1月1日～令和5年7月19日まで

木祖村大字菅3121番地7
黒内 拓美氏

推薦理由

長野県農業大学校卒業、酪農関係に就職、退職後は和牛繁殖及び肥育経営を行い、規模拡大を進め活発に活動実践している。また木祖村畜産部会の副部長として職務を遂行されていることから、適任である。

12月15日(火)

常任委員会連合審査

(産業経済委員会)

議案第75号 木祖村基金条例の一部を改正する条例について

問 令和7年度末まで5年分の利子補給の見込額1,800万円の状況はどうか。

答 今年度11月末実績で59件、3月末までにはもう数件申請があると見込まれる。

(産業経済委員会)

議案第77号 木祖村地域経済牽引事業の促進に係る固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例について

問 具体的に木祖村でどのような事業が対象となるのか。

答 小規模事業者の設備投資が対象で、木曾地域が促進区域として位置付けられている。

(厚生文教委員会・産業経済委員会)

議案第78号 令和2年度木祖村一般会計補正予算(第8号)

問 ふるさと納税の寄付金の活用はどのようなものか。

答 特定財源として充当していない。一般財源化している。今後は基金を創設し、次年度以降の事業への充当も検討したい。

問 ふるさと納税の寄付金が増加した理由は何か。

答 ポータルサイトの追加と寄付額、返礼品の設定を工夫したためである。

問 ふるさと納税の返礼品の工夫をどのようにするのか。

答 商工会等を通じて事業者への呼びかけを行う。

問 ふるさと納税の返礼品で人気がある物は何か。

答 トウモロコシ、白菜、寿司桶、スキー場のシーズン券等が人気である。

問 ふるさと納税の専用インターネットサイトの使用料が、高いのはなぜか。

答 ポータルサイト「ふるさとチョイス」「さとふる」への掲載の費用で寄付金額に対して5%、12%の使用料契約になっているためである。

問 ふるさと納税の実績額の内訳は、どのようなものか。

答 12月13日現在、寄付金額1,765万円で、ふるさとチョイスが1,022万円、さとふるが626万円、他に直接申し込みが117万円となっている。

問 庁内キューピクル増設工事の内容は。

答 今後の電力需要を見込んで、契約をしている工事の増工分である。

問 福祉施設のパンフレットの内容はどのようなものか。

答 A3両面カラーで建物概要を掲載し、村民にも配布をする。お披露目は令和3年3月28日としている。

問 後期高齢者医療制度事業の委託料に費用がかかるのはなぜか。

答 税制改正に伴う広域連合電算システムの改修であり、国の補助もある。

問 文化財保護審議会の活動内容はどのようなものか。

答 文化財の保護及び指定・解除の審議やパトロールが主な活動内容で、現在の委員数は9名である。

問 郷土館の大規模改修はどのようになっているのか。

答 今後、実施計画に沿って予算計上し、時代に合ったかたちで設計を進める予定である。

問 社協建物の村誌編纂室にある古文書の管理はどうなっているのか。

答 台帳と精査確認しながら整理していきたい。

問 地域おこし協力隊員の発表の場をどのように考えているのか。

答 村づくりミーティングで活動報告、意見交換やパネルディスカッションを令和3年2月13日に行いたい。

問 今後、満期を迎えた地域おこし協力隊員への村からのサポートをどのように考えているのか。

答 1年目は上限100万円、国から補助金が出る。2年目3年目に関しては、村独自に支援を検討する。

意見 地域おこし協力隊員への村独自の支援制度の充実をお願いした。

問 地域おこし協力隊が設立する「一般社団法人木曾アーツ」の事業には、観光協会も絡むが発注者は村なのか。

答 ほとんどの事業を村が委託するかたちとなるが、一般事業者が発注する事業を受注する場合もある。

問 地域おこし協力隊起業支援補助金の交付要件について、永久に補助金返還義務があるのか。

答 3年以内に廃業した場合は、返還義務があるが、4年以降であれば返還義務はない。

問 木曾三川水源地域対策基金補助金及び上下交流事業費の減額はなぜか。

答 コロナの影響で計画していた合宿誘致の事業が実施できなかったためである。

木曽郡町村議会議長会報告

県関係部局長への陳情を行いました。

木曽郡町村議会議長会は10月27日～28日、8月の総会の決議事項をもって長野県知事、長野県議会議長ほか県庁各部局に陳情を行いました。

陳情先

長野県知事・長野県議会議長・教育委員会教育長・企画振興部長・建設部長・県立病院機構理事長・林務部長・産業労働部長・健康福祉部長

1. 木曽地域における高度情報通信網の活用について

- ・各家庭とCAVTを通じて生活情報、防災、医療関連の情報が得られるよう番組の高度化に必要な機材、人材の整備確保を。
- ・テレワークを推進するための高度通信網の整備、オンライン教育の取組と教員の研修、家庭情報通信環境の整備拡充の支援を。
- ・マスク着用による表情が見えない子どもたちの対策。

2. 新型コロナウイルスの感染症対策について

- ・事業者の支援、相談体制の強化、医療機関の支援強化。

3. 木曽地域の医療体制の維持・充実について

- ・循環器内科、脳神経外科、精神科等の常勤医師確保、産科・救急体制維持。
- ・木曽病院の設備維持に対する援助。

4. 太陽光発電施設の設置計画に関して

- ・砂防施設、土砂崩落の危険性。景観保持のため厳正に審査を。

5. カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害対策について

- ・木曽南部から木祖村まで広がっている被害の拡大防止のため適切な防除対策を。

6. 木曽地域の道路交通網の整備について

- ・インフラ整備、安全対策、事故防止、景観整備ほか、361号線の崩落箇所早期復旧を特に要望。



一般
質問

村政を問う

5 議員 5 件

鈴木 正弘 議員

❶ デイサービスセンター「そほく」の廃止に伴う対応を問う

栗屋 正一 議員

❶ 村の有害鳥獣対策を問う

田中 寛幸 議員

❶ 木祖村気候非常事態宣言その後の取り組みは

安原千佳世 議員

❶ 来年度予算の基本的方針について

深澤 衿子 議員

❶ 笑顔あふれる源流の里をめざすために



鈴木正弘 議員

デイサービスセンター「そほく」の廃止に伴う対応を問う

答 介護のサービス向上に、今後も努力をする

問 デイ「そほく」の廃止が、村民や近隣の住民に周知されていない。なぜ廃止なのか、これまでの経過の説明を聴きたい。

住民福祉課長 福祉施設組合は、デイ事業で類似施設の増加と介護報酬改定の収支状況等の悪化、令和3年度から介護保険事業計画策定までに、組合直営からの脱却を図る方針を掲げ、指定管理や施設貸与として民間に募集したが事業者が現れなかった。

問 決定はいつ、村民への説明をいつするのか。

住民福祉課長 募集の結果を受けて組合は、先月11月に正式決定をした。12月会議終了後、速やかに村民に周知をする予定である。

問 村長は、松塩筑木曾老人福祉施設組合理事者の立場として、廃止の方針にどのように対処されたのか。

村長 突然の方向転換であった。村としてはあくまでも組合が責任を持って運営するべきで指定管理者制度の導入を選択肢として優先すべきと意見を申し入れたが、令和3年度以降は全ての組合施設でデイ事業を撤退する方針を打ち出した。組合管理者に継続を強く要望をしたが、要望は受け入れられる事はなかった。私は今でも組合が責任を持って運営すべきと意見を変えていない。

問 村でも確実に高齢化率が上がり高齢者が増加傾向にある。村として現在の利用者と今後の高齢者はどこの施設へ行けば良いか対応等を考えているか。

住民福祉課長 14名が決定・残り10名はケアマネジャーが相談に応じ検討している。

問 組合と民間との費用の違い等、何か手厚い援助的措置等はないものか。

住民福祉課長 同種の施設では費用の差は無いが、サービス内容により差額が生ずる。その差額を行政が埋める事はない。今後ケアマネジャーと一層の連携を図り円滑に利用先が決まるよう努力をする。

問 介護職員・運転手の今後の仕事は、又、施設の活用はどのようになるのか。

住民福祉課長 関係者と話を詰めている。施設は福祉避難所として、最低限の機能を保持していただくと聞いている。

意見 いつかは私たちも、施設を利用しなければならない立場になるはずである。村行政としても、今後の高齢者等が民間の通所介護サービス等を受けやすくする為、それに携わること家族と介護従事者の方々へのご配慮に、一層の努力をしていただき、早期に村民に対して方向性を示し、ご理解をしていただく事を切にお願いしたい。



栗屋正一 議員

村の有害鳥獣対策を問う

答 ご要望の点について前向きに検討していく

問 「有害鳥獣の出没を防ぐには、里と山林との境界を明確にし、人と動物との棲み分けをすることが重要である」と鳥獣研究家の中田耕平さんも言われており私も感銘を受けている。そこで、村の緩衝帯整備事業を見直し機械力を導入して強化する事を昨年の12月議会で提案した。来年度よりシルバー人材センターに移行するので検討したいという回答だった。そこで、実績と課題を伺う。

産業振興課長 ①緩衝帯整備と環境整備との棲み分けが難しい。②急傾斜地があり思うように作業が進まなかった。以上等から効果が見えないところもあった。(実績略)

意見 平坦地はハンマーモアで刈り、急傾斜地に人が回れるような戦略の検討と要望をしたい。

問 ハンマーモア等を個人購入する際の補助金制度、また団体に対し村からの貸与を考えて欲しい。

村長 言われている事はわかるが今の時点では前向きに検討していくとしか言えない。

問 菅地域電気柵（県営中山間総合整備事業）は6年も経過しているがこれまでの経過と今後のスケジュールについて伺う。

産業振興課長 経過については平成26年度に説明会を行い各戸から同意を得たので県に要望をあげた。平成30年、令和2年行政懇談会で基本事項の説明を行った。現在自治会長の交代があり新自治会長に相談している。今後のスケジュールとしては後の管理も考え設置方法については各自治会で決めてもらう必要がある。再度話し合いの場を設けたい。

問 その他 有害鳥獣捕獲実績、熊の出没傾向、くくりわな資格者等について伺う。

産業振興課長 会員は24名で、入会員が令和元年度に1名、本年度1名の計2名があったが、2名の方が辞められた。会員の方には費用面で講習会や登録手数料に関して県・郡等の会費以外を全額補助しているのが現状である。



田中寛幸 議員

木祖村気候非常事態宣言その後の取り組みは

答 今後もゼロカーボンの取り組みをより具体的、効果的に行っていく

問 木祖村では、気候非常事態宣言をこの3月に宣言した。長野県でも宣言をして2050年までには二酸化炭素の排出量を実質0目標とした。

木祖小学校6年生の模擬こども議会でも大きく取り上げていた。

今までの木祖村としての取り組みと、今後もゼロカーボンの取り組みをしっかりと目指すのかについて伺いたい。

住民福祉課長 平成25年度の自然エネルギーの活用計画に基づき具体的には、とちのみ保育園の太陽光発電をはじめ薪ストーブ、EV車、ハイブリット車、照明のLED化、ソーラーパネル設置補助などに取り組んできた。今後もゼロカーボン化を目指して、より具体的、効果的な取り組みを目指していく。

問 木祖村の新しい施設への設置は。

住民福祉課長 現在建設中の福祉施設には太陽光発電、窓には冷暖房効率に優れた木製サッシ、内装には間伐材を利用し、地域資源を活用している。薪ストーブについては、森林環境税を利用して来年度設置に向け検討していく。

問 今後の取り組みは、どうするか、どう進めていくか具体的に。

住民福祉課長 木祖村村内に地球温暖化対策実行計画推進本部を立ち上げ、村の公共施設や指定管理施設の温室効果ガスの廃出量の把握を行うとともに木祖村の自然エネルギー活用計画などをもとに目標達成に向けた検討を行い村民の皆様にも協力していただきたいものを含め3月には計画を公表したい。



安原千佳世 議員

来年度予算の基本的方針について

答 現在作業中であるが、村長就任以来初めての
厳しい予算となる

問 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で各地の自治体が税収入の落込みなど歳入の大幅減少を理由に来年度予算において歳出を大幅に削減する方針を打出している。

①村税の見込み②歳出の考え方③財政調整基金の取り崩し等を踏まえて来年度の予算編成の基本的な考えを問う。

村長 来年度予算については全職員を集めて予算編成会議を行ったところである。

①村も税収が落ち込むことは避けられない。17,500千円ほど村税が落ち込むと見込んでいる。法人税も3,500千円落ち込むと見込む。固定資産税もダム固定資産税が12,500千円落ち込む。合わせて34,000千円の税収落込みが懸念されている。

②歳入の大半を交付税に依存している。その交付税がどうなるか分からない状況である。先般も上京して

陳情をしてきたところであるが、国も財政状況は苦しく予断を許さない。国の財政難の中交付税削減も考えられる。そのような状況下、村としても歳出を抑制せざるを得ない。物件費・補助費が増加傾向にあり、経常収支比率も悪化しつつある。一方でコロナ感染症拡大防止の経費は発生してくる。従って、令和2年度予算対比で物件費・補助費は一律10%カットする方針である。村の人口減少対策など必要な事業は継続する。

③財政調整基金については、30年度、元年度と繰入を行った。現在作業中であるが、来年度も繰入はせざるを得ないと考える。ただし、無駄は省き必要なものには金をかけるという基本姿勢でやっていく。村長になって初めての厳しい状況と考えている。

意見 厳しい状況は理解できる。国への働きかけ等村長以下一丸となって取り組んでいただきたい。



深澤衿子 議員

笑顔あふれる源流の里をめざすために

答 公共交通は大事である。利便性を考え検討する

問 今年度はコロナに始まり来年度に向けてもコロナ感染防止対策は続けなくてはならない、その中で住民の生活・健康を考え公共交通について質問する。来年4月から新しい福祉施設の利用が始まる。今年3月に公共交通に関する住民アンケート結果が示されたが、今年「住民の足」のありかたについて検討されたか？

総務課長 アンケート結果をふまえ、ひまわり号、たんぼ号の名前は知っているがルートや利用方法、料金など知らない方がいた。現在、公共交通のガイドブックを作成中で、今年度中に各家庭へ配布する。

問 アンケートの回収率が35%と低い、貴重な意見もありガイドブックという形で周知することは良いと思うがバス路線については検討されたか？

総務課長 路線の見直しは検討していない。現状の路線でガイドブック配布により十分使ってもらえると考える。他町へのルートは来年以降検討していく。

問 健康福祉計画の中では検討はこれからと理解したが住民が利用しやすい福祉施設とすればバス停等は考えられないか？

総務課長 改めての停留所の設置は考えていない。1年利用状況をみて検討する。最寄りのバス停をはっきりわかる様にする。

問 住民福祉課としては、施設への住民の足を考えつつ何か新しい企画・事業は考えているか？

住民福祉課長 フィットネスルームとしては有酸素運動マシンやTRXロープは4月から設置できる。他の機器は新年度予算で購入し揃ったところで個人の利用者を募る。時期は未定。エアロビクスや運動教室、中学生の部活でも利用していく事を考えている。他には公民館の企画で盆栽やしめ縄教室など計画している。

問 村として1番に住民に寄り添った生活支援が大切と考える。村長は住民の足についてどう考えるか？

村長 住民の皆さんが福祉施設を利用してデイサービスに行かなくてもいいように、健康管理に取り組んで欲しい。公共交通は大事である。利用者の様子を見て横の関係もしっかり作り利便性を考えて検討していく。

木祖村議会全員協議会

① 令和3年度当初予算編成方針について

令和3年度は「第2次木祖村まち・ひと・しごと創生総合戦略」の2年目になることから、これまでの各事業の検証を踏まえて第2次総合戦略の基本施策の積極的な推進に特に重点を置く。財政健全化を推し進めながら、国や県における補助制度を積極的に取り入れて、連合自治会からの要望や行政懇談会における意見等を踏まえ、必要な事業については事業化、予算化する。

② 第1次総合戦略の検証結果について 検証結果内訳：開催日令和2年10月21日(水) 検証委員8人

評価基準	A	B	C	D	—	計
評価数	17	11	14	1	0	43
割合	39.5%	25.6%	32.6%	2.3%	0%	—

評価基準 「A」：目標値以上の実績、「B」：80%以上100%未満の実績、「C」：80%未満の実績
「D」：未実施、「—」：実績を数値化できない

③ 国土強靱化計画について

国土強靱化に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、過去の災害から得られた教訓等を踏まえ、強靱化に向けた施策を効果的に実施し「最悪の事態」を防ぐため、指針となる計画として策定する。

- ・総合目標：「笑顔あふれる源流の里の生命、財産、生活を守る」
- ・計画期間：2021年度（令和3年度）から2025年度（令和7年度）の5年間

④ 行政懇談会について

令和3年2月6日(土) 1区～7区「村民センター」
2月7日(日) 8区～11区「村民センター」
2月14日(日) 12区～19区「老人福祉センター」

行政懇談会開催、時間調整して開催≪10：00からの部・13：00からの部・15：00からの部≫

⑤ 木祖村福祉施設の名称と管理形態について（案）

- ・名称「幸せテラスまめのわ」
- ・平日・土午前8：30～午後9：00（日祝日午後8：30～午後5：15）
- ・施設の休館日は火曜日、年末年始（12月29日～1月3日）

⑥ デイサービスセンターそほくの休止について

- ・諸般の事情により開業から24年経過した「デイサービスセンターそほく」が令和3年3月末で休止することについて、文書等で住民へ周知する。

⑦ ウチダザリガニの捕獲調査について

- ・当面は尾骨沢からの拡散防止を図ることを目的とし、木曽川漁業協同組合、県水産試験場、ダム管理所、村が協力して実施する。

⑧ 県営中山間総合整備事業の状況について

- ・大原井水は：(令和3年度 以降) 測量・設計・工事
- ・辺見西山は：(令和2年度 設計・工事) (令和3年度工事繰越)
- ・岩淵栗屋は：(令和2年度設計・工事) (令和3年度工事繰越)
- ・あやめ池栈橋は：(令和3年度 測量・設計・工事)

⑨ 森林経営管理制度事業の推進状況について

- ・木祖村「初沢（はつざわ）団地」で所有者説明会を開催した。
- ・意向調査の結果に基づき、経営管理権集積計画の策定作業を進める。

⑩ スキー場あり方検討会について

検討会の方針：スキー場は廃止ではなく、どうしたら存続できるかを検討しているが、老朽化による修繕費問題、ここ数年の営業日数不足の減収、安全の確保に資金が捻出できない。

⑪ しらかば平別荘管理棟の改修工事について

- ・令和3年度に建設を行う。浄化槽は設置せず、汲み取り方式で現在設計の検討段階である。

請願・陳情について

11月会議で、議員発議により、意見書を提出しました。

《委員会審議に付託され審議》【採択・議決】発議第3号 提案議員 安原千佳世

「国土強靱対策の推進を求める意見書」

住民の安心・安全が脅かされる甚大な被害が発生している自然災害に備え国民の生命・財産を守る「防災・減災、国土強靱化」の取組が一層重要であり充実強化は、喫緊の課題となっていることから、本村においては、村民の生命と財産を守ることを最優先に、大規模自然災害が発生しても村土の機能を維持し、迅速な復旧を可能とする強靱な地域づくりを推進するため、国土強靱化の取組を推進して措置を講ずるよう強く要望します。

記

- ①「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」を強化に推進していくとともに、3か年の最終年度である令和2年度においても、必要な予算を確保し、対策を講じること。
- ②頻発、激甚化する災害に対し、地方自治体が国土強靱化地域計画を推進するための取組に必要な地方交付税等の予算の確保、補助対象事業の拡大などに努めること。
- ③令和3年度以降も継続して国土強靱化に計画的に取り組むため「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」終了後も制度の拡充と予算の別枠確保を図ること。

令和2年11月2日 長野県木曾郡木祖村議会

(意見書提出先) 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣、国土交通大臣
内閣官房長官、国土強靱化担当大臣

12月会議に、地域医療と公立・公的病院を守る長野県連絡会より、木祖村議会に陳情書が提出されました。

《委員会審議に付託され審議》【採択・議決】発議第4号 提案議員 大久保繁子

「安全・安心の医療・介護の実現と国民のいのちと健康を守るための意見書」

2020年の新型コロナウイルスによるパンデミック（感染症病床や集中治療室の大幅な不足や、公立・公的病院の重要性、医師・看護師・介護職員に人員不足、保健所の不足問題などで公衆衛生施設の拡充は喫緊の課題です。国が安心して暮らせる社会実現のために、国に要請します。

記

- ①今後も発生が予想される新たな感染症拡大などの事態にも対応できるよう、医療、介護、福祉に十分な財源確保を行うこと。
- ②公立公的病院の統合再編や地域医療構想を見直し、地域の声を踏まえた医療体制の充実を図ること。
- ③安全・安心の医療・介護提供体制を確保するため、医師・看護師・医療技術職・介護職等を大幅に増員すること。
- ④保健所の増設・保健師等の増員など公衆衛生行政の拡大を図ること。ウイルス研究、検査、検疫体制などを強化・拡充すること。
- ⑤社会保障に関わる国民負担軽減を図ること。

令和2年12月18日 長野県木曾郡木祖村議会

(意見書提出先) 内閣総理大臣、厚生労働大臣、財務大臣、総務大臣

林活

令和2年10月23日(金) 木曾文化公園 文化ホール

令和2年度

森林・林業・林産業活性化促進議員連盟 木曾ブロック連絡会議研修会

令和2年10月23日(金) 木曾文化公園文化ホールにて、林活議連木曾ブロック連絡会議と木曾広域連合の共催で研修会が開催され、木曾地域の議員をはじめ、町村長、林業大学校1学年、国、県、町村の林務関係者等、約140名が参加をしました。

研修会の講師として、林野庁長官本郷浩二氏と長野県林務部長井出英治氏をお迎えしました。

講演 「持続可能な森林林業をめざして」 講師：林野庁長官 本郷 浩二氏



国としては、森林資源の適切な管理と林業の成長産業化の実現に向けて、令和3年度林野関係予算が盛り込まれています。内容としては、①森林整備事業②治山事業③農山漁村地域整備事業④林業成長産業化総合対策⑤「緑の人づくり」総合支援対策⑥新たな森林空間利用創出対策⑦森林・山村多目的機能発揮地域力支援対策⑧花粉発生源対策推進事業⑨シカ等による森林被害緊急対策事業⑩森林病害虫等被害対策事業等、様々な分野に対する対策事業のあり方など、政府によるSDGs（エスディーゼーズ）の取組で、国産材利用の森林をサイクル方式にする為、日本の森林資源の活用を維持することを目指したいとの講演内容でした。

講演 「長野県の森林・林業の現状と県政の主な話題について」

講師：長野県林務部長 井出 英治氏

森林県「ながの」は森林率全国3位、県土の約8割を森林が占める。多様な樹種構成では、カラマツ、アカマツ、ヒノキ、スギ、広葉樹など地域の特性に応じた多様な樹種が分布しており、森林蓄積全国4位でカラマツを主体とした森林等は、先人たちのたゆまぬ努力により着実に増加傾向で、木材の生産では素材生産量全国15位と増加傾向になっている。

今後、信州のプロジェクトとして、「成熟、持続的に使う時代」「多段階的に利用する施設の整備」「林業のサイクルの確立」「森林県から林業県への飛躍」「温暖化防止への貢献」等これからの森林を多目的に利活用する取組が必要でなければならない。

県政の話題として、「長野県気象危機突破方針」「長野県DX（デジタルトランスフォーメーション）戦略」「新型コロナウイルス感染症への対策」等、脱炭素まちづくり・環境イノベーション・IT人材の育成と同時に感染症対策において、検査体制の整備など拡大への備えで経済の再生等を図ることを話題とした講演でした。



リモートワーク体験

令和2年10月7日(水) 2F大会議室

リモートワーク体験 (議員の研修会)

新型コロナウイルス感染症の関係で、会議やイベント・集会等が中止になる状態がつづく今日、議会でもパソコンによるweb会議システムの使用研修会を行いました。

我々も世の流れに即した体験学習経験をしてみて、密にならないための対策方法として実感しました。短時間での体験操作でしたが、今後、これからの暮らしは多種多様な生活で流動的な動き等の変化が求められます。田舎暮らしの私たちには、まだアナログ感覚の方が生活に密着しています。これから先、双方の仕組みを両立しながら変わりゆく生活での活用が課題となるかと思われれます。

マイナンバーカード取得率向上のため議員も登録

現在、国ではマイナンバーカードの取得を推進しています。議員のメンバーも木祖村の普及率向上のために研修会を行い、申請の登録手続をしました。

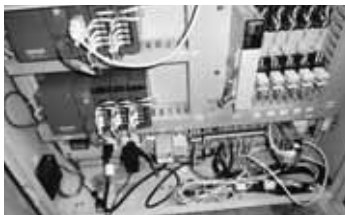


視察&研修

12月15日(火)

スノーマシン中央監視システム導入の視察 (スキー場あり方検討会のメンバーも同行)

やぶはら高原スキー場の支援として、スキー場の早期全面滑走を可能にする為、広範囲な降雪を早期に実現させる人工降雪システムの導入2,475万円の施設を視察しました。当日は雪が舞いスノーマシンからも勢いよく雪が吐き出される様子を見ながら議員とスキー場あり方検討会メンバーの方々とは現場へ向かい、担当者から監視システムの操作機能について説明を受けました。コンピューター設置による多くの操作で、今まで過酷な条件で作業をしていた関係者の活動が大幅に改善され、その様子は画面を見て一目瞭然と理解できました。又、監視装置の稼働により降雪時間が今までより2時間半延長が可能となり、さらには降雪可能な気温が、-3度から-1度での細かい粒子の雪が作られるとのことでした。



これにより早期にゲレンデへ雪が作り出され、全面滑走の準備に繋げることができそうです。今後国設第一ゲレンデ(降雪マシンの不設置・水不足による小型水槽)等、降雪に関連する課題はまだ残りますが、何よりも現場環境が大幅に改善されたことが確認でき、基幹産業であるスキー場として課題の一部が解決できたのではないかと感じ、今シーズンからの無事故で営業できることを願い視察を終えました。

元気発見! むらびと大図鑑

エアロビクスサークルの紹介 代表者 ひらい みねこ 平井 峰子さん

エアロビクスは平井峰子さんにご指導をいただき毎週水曜日午後8時から小学校体育館にて活動をしています。平井峰子さんは、持ち前の快活な明るさでサークルをリードし20年以上になります。1時間ほどの運動ですが普段使わない筋肉を刺激し、凝り固まった身体がほぐれていくのがわかります。無理のない運動量でどなたでも自分のペースで続けられるので会員の年齢層も幅広く和気あいあいと活動しています。冬期間はお休みしていますので、春になったら一緒に体を動かしませんか？お気軽にご参加ください。



12月1日(火) 木祖小学校体育館にて

編集後記

議員生活もあっという間に2年が経過しようとしています。2年目はコロナウイルス感染症拡大の影響で諸行事・会議が中止となり、議員活動も縮小を余儀なくされた1年でした。まさに「人生塞翁が馬」です。しかし、こんな時だからこそこれまでの生活や人生を見つめ直す良い機会であると考えます。2011年東日本大震災の時にも一度立ち止まって生活や人生を見つめ直しました。家族の絆、地域の絆そして国の在り方や環境等について考える良い契機となりました。

今回のコロナ禍もまさにあの震災の時と一緒です。あの暗い困難な時代を乗り越えた日本民族、日本です。

「禍福は糾える縄の如し」です。今回も同じ志を持って当たれば必ず乗り越えられると信じます。

木祖村議会報編集委員会 委員長 鈴木正弘 委員 安原千佳世 田中寛幸 大久保繁子